



現状と課題

- 令和4年度全国学力・学習状況調査の平均正答率が国語・算数とも県・全国より下回る結果
【国語】-2.6(県)-0.6(全国) 【算数】-4.0(県) -3.2(全国)
- 令和4年度埼玉県学力・学習状況調査では、県の平均正答率との比較において、4・5年生では国語・算数とも上回る。学年により無回答率が高い傾向が見られる。
【国語】4年生 +3.2 5年生 +5.7 6年生 -5.1
【算数】4年生 +0.2 5年生 +1.5 6年生 -4.5

現状と課題をもとにした仮説

仮説①

授業形態の多様化の推進と、授業における課題設定の工夫やICTの効果的な活用で、より主体的な学び合いができ、まとめや振り返りが深まり、学力の向上が達成できるであろう。

仮説②

学級経営を充実させ、学級力向上のため児童自身が学級をよりよくしようと現状を分析、方策を話し合うことで、「やりぬく力」などの非認知能力が改善され、学力向上につながるであろう。

＋引き続き、粘り強く最後まで取り組むという視点

事業実施報告

【通年】 少人数指導
チームティーチングや教科担任制
学級力向上プロジェクト(令和5年度より)

【令和4年度】
8月25日 校内研修(全国学調分析)
9月 8日 校内研修(県学調分析)
9月27日 スクラム事業事前訪問(〇〇教委)
11月22日 スクラム事業訪問

【令和5年度】
8月21日 校内研修(全国学調分析)
9月 7日 校内研修(県学調分析)
9月19日 スクラム事業事前訪問(〇〇教委)
11月27日 スクラム事業訪問

仮説をもとにした取組内容

取組① 算数科における少人数指導

- ・習熟度別授業で一人一人にきめ細かい指導
- ・レディネステストによる実態把握
- ・実態に合わせた教材研究・環境整備
- ・中位層の学力を底上げするためのコース編成



5年生



⇒県学調で伸びが少なかった
中位層の学力の底上げ

取組② 国語科におけるチームティーチングや教科担任制

【4年生】・・・チームティーチング

- ・加配教員がT1、担任がT2
- ・話し合い活動などで教員同士が手本を提示
- ・書く活動では苦手の児童を担当が支援



【5年生】・・・教科担任制

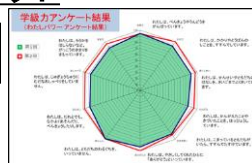
- ・加配教員を巻き込んだ教科担任制を推進 国語では学年主任がT1 加配教員がT2
- ・学年主任がすべての国語を担当することで学年が同一歩調で授業を進められ、詳細な実態把握が可能
- ・複数の教員が学習指導に関わり、多くの目で児童を評価可能

取組③ 学級力向上プロジェクト

学級経営の充実×学力の伸び

- ・児童が学級の様子を自己評価しレーダーチャートで弱点を明らかにする。その後、改善策を話し合い実行するもの

⇒本校の課題である「やりぬく力」など非認知能力を向上させるため



今宮信吾・田中博之編著『NEW学級力向上プロジェクト』
金子書房、2021年
磯部征寿・田中博之編著『NEW学級力向上プロジェクト2』
金子書房、2024年
学級力向上プロジェクトウェブサイト
(公益財団法人理想教育財団)
https://www.risoei.or.jp/classroomcompetency_top.html
日本学級力向上研究会
<https://sites.google.com/view/jscci/home>

取組④ 学校全体でのその他の取組

・家庭学習の充実～蛍雪賞の表彰～



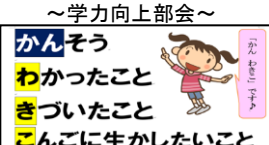
・算数問題への挑戦～「校長室の窓」～



・学習支援放課後事業～「〇〇こぼと塾」開設～



・学習規律・振り返りの視点の掲示
～学力向上部会～



成果

成果① 全国学力・学習状況調査 ～県・全国との正答率の差～

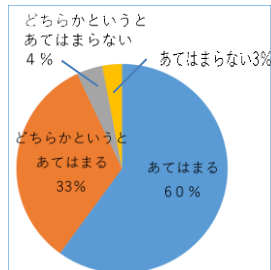
国語	平成30年度	平成31年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
埼玉県平均正答率	62.5	64.0	65.0	67.0	68.0	69.0
全国平均正答率	62.7	63.8	64.7	65.6	67.2	67.7
D 小平均正答率	54.5	61.0	62.0	65.0	66.0	70.0
埼玉県との差	▲8.0	▲3.0	▲3.0	▲2.0	0.8	1.0
全国との差	▲8.2	▲2.8	▲2.7	▲0.6	▲1.2	2.3

算数	平成30年度	平成31年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
埼玉県平均正答率	56.0	66.0	69.0	64.0	62.0	64.0
全国平均正答率	57.5	66.6	70.2	63.2	62.5	63.4
D 小平均正答率	51.0	62.0	62.0	60.0	62.0	64.0
埼玉県との差	▲5.0	▲4.0	▲7.0	▲4.0	0.0	0.0
全国との差	▲6.5	▲4.6	▲8.2	▲3.2	▲0.5	0.6

令和5年度は両教科とも県平均以上になり、令和6年度には両教科とも県平均以上、全国平均以上になった。

成果③ 一昨年・昨年に引き続き、今年度前半の〇〇市町村授業改善・学校生活アンケートでも全児童の90%以上の児童が「授業がわかる」と回答している。

93%



成果② 埼玉県学力・学習状況調査～県の平均正答率との比較～

国語	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4年生	-0.7	+3.2	+0.7	+0.4
5年生	-4.6	+5.7	+7.3	+4.7
6年生	-2.9	-5.1	+1.3	-1.2

算数	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4年生	-3.7	+0.2	-0.8	+0.5
5年生	-7.8	+1.5	+9.2	+0.5
6年生	-2.2	-4.5	+1.8	+1.3

令和3年度では、すべての学年・教科で県の平均正答率を下回っていたが、スクラム事業の結果ともいえる令和5・6年度は一部を除き県の平均正答率を上回るようになった。令和5年度は無回答率も下がっている。

成果④ 学級力向上プロジェクトを実施することで、児童自身が学級の実態を振り返り、より良くするための方策を学級会等で自分たちで考えることができたようになった。

- 主な活動
- ・学級会での話し合い
 - ・自分たちでのルール作り
 - ・全校朝会の校長講話との関連で短期的な目標作り



課題及び今後に向けて

○学力向上には、学級経営の充実が必要不可欠

- ・継続した学級力向上のための具体的方策を検討・実践していく。学級の中で意図的に自己決定の場や成果を自覚できる場を設定する。

○一人一人への効果的な支援のさらなる充実

- ・コバトンのびのびシートなどを有効活用し、適切な現状把握を行い、一人一人に合った学習方法について教員同士で協議し共通理解を図る。

○スクラム事業の理念の共有と継承

- ・引き続き実態に合わせて授業形態や学習形態の多様化を計画的・意図的に推進していく。併せて成果のあった取組を研修等で学校全体で共有する。

ICTの活用



学力テストの分析



一人一回の研究授業



指導案検討会

